

「体験の風をおこそう」運動[®]

国立青少年教育施設における傷病の概況

(令和3年度調査)

令和5年3月

目 次

I. 調査の概要

1. 調査の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
2. 調査対象とした傷病の条件・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
3. 調査期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
4. 調査対象とした施設・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
5. 調査実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
6. 調査内容・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
7. 本書を読むに当たって・・・・・・・・ p 1

II. 調査結果の概要

1. 調査結果のポイント・・・・・・・・ p 2
 - (1) 施設で発生した傷病の概況
 - (2) 負傷の概況
 - (3) 疾病の概況
 - (4) 負傷の発生件数・割合の推移（前回調査との比較）
2. 傷病の特徴と今後の安全対策・・・・・・・・ p 4
 - (1) 負傷の特徴と安全対策
 - (2) 疾病の特徴と安全対策

III. 調査結果

1. 施設で発生した傷病の状況・・・・・・・・ p 6
 - (1) 施設で発生した傷病の件数
 - (2) 年齢期別にみた傷病の発生件数・割合
 - (3) 月別にみた傷病の発生件数・割合
 - (4) 利用期間別にみた発生件数・割合
 - (5) 時間別にみた発生件数・割合
 - (6) 活動内容別にみた発生件数・割合
 - (7) 場所別にみた発生件数・割合
 - (8) 天候別にみた発生件数・割合
 - (9) 病院受診、処置・静養後の対応別にみた傷病の発生件数・割合
2. 負傷の概況・・・・・・・・ p 12
 - (1) 負傷の状態
 - (2) 症状別にみた負傷の部位、程度、要因
 - (3) 状況別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ① 年齢期別・性別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ② 月別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ③ 時間別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ④ 活動内容別、場所別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ⑤ 天候別・症状別にみた負傷の発生件数

(4) 負傷した時の状況

- ① 負傷の多かった活動の事例（上位 5 つのうち、代表的な事例を抜粋して掲載）
- ② その他の活動で重傷だった事例

3. 疾病の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 27

(1) 疾病の状態

(2) 症状別にみた疾病の要因、発症時期、処置・静養後の対応

(3) 状況別・症状別にみた疾病の発生件数

- ① 年齢期別・性別・症状別にみた疾病の発生件数
- ② 月別・症状別にみた疾病の発生件数
- ③ 時間別・症状別にみた疾病の発生件数
- ④ 活動内容別・場所別・症状別にみた疾病の発生件数
- ⑤ 天候別・症状別にみた疾病の発生件数

IV. 傷病の特徴と今後の安全対策

1. 負傷の特徴と安全対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 36

(1) 負傷の特徴

(2) 今後の安全対策

2. 疾病の特徴と安全対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 37

(1) 疾病の特徴

(2) 今後の安全対策

参考資料

傷病記録

普及啓発用チラシ

I. 調査の概要

1. 調査の趣旨

本調査は、国立青少年教育施設で発生した傷病や事故の状況を把握し、その傾向や要因を検証することで、施設の安全管理の改善や安全対策の充実に資する基礎資料を得ることを目的としている。

2. 調査対象とした傷病の条件

研修期間中に発生した傷病もしくは活動等によって既往症が悪化した傷病のうち、以下のいずれかの状況に該当する傷病

- ・保健室や事務室で対応した傷病
- ・病院を受診した傷病（事務室を通さず、団体が直接病院に搬送した傷病も含む）
- ・活動現場等で施設職員が手当てした傷病

3. 調査期間

令和3年4月1日（木）～令和4年3月31日（木）

4. 調査対象とした施設

国立青少年教育振興機構が有する施設 27 施設（国立オリンピック記念青少年総合センターを除く）

5. 調査実施体制

国立青少年教育振興機構教育事業部企画課（調査・普及）、青少年教育研究センター（集計・分析）

6. 調査内容

- (1) 傷病者の情報（氏名、性別、年齢）
- (2) 傷病が発生した状況（日時、利用者数、天候、活動場所、活動内容、処置・静養後等）
- (3) けが（症状、部位、程度、けがをした時の状況）又は病気（症状、時期）
- (4) 傷病の発生要因（本人、指導・引率者、装備等、環境）

7. 本書を読むに当たって

- ・複数の傷病が重複して発生した場合、最も当てはまる症状を一つ選んで回答しているため、副次的に発生した傷病は件数に含まれていない。

例：自転車で転倒し、手首を骨折、足を擦りむいた場合 → 骨折（手首）として集計

- ・重複回答や無回答によって回答が分からなかったものは「不明」として集計している。
- ・図表に示している回答比率（%）は小数点以下第2位を四捨五入しているため、その和が100.0%と一致しない場合がある。
- ・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、①利用者の受入れ制限などの措置がとられ、利用者数が大幅に減少していること、②三密を避けるなどの感染防止対策により、活動内容に偏りが生じているなど、例年とは状況が異なることに留意する必要がある。

II. 調査結果の概要

1. 調査結果のポイント

(1) 施設で発生した傷病の概況

- 令和3年度の国立青少年教育施設（国立オリンピック記念青少年センターを除く27施設）の利用者数は約86万人で、そのうち傷病の発生件数は985件（負傷491件、疾病494件）で、前年度（434件）に比べ、551件（負傷300件、疾病251件）増加^{*}した。[p6・表1-1]

※ 前年度は新型コロナウイルスの流行により利用者数が大幅に減少したが、令和3年度は利用者数が回復傾向にあることから、傷病の発生件数の増加もその影響を受けていることに留意する必要がある。

- 傷病者の年齢期ごとに傷病の発生件数をみたところ、負傷、疾病ともに「小学生」（負傷281件、疾病263件）が最も多く、傷病の発生件数のおよそ5割半を占めていた。[p6・表1-2]

(2) 負傷の概況

- 負傷で多かった症状は「打撲」（90件）で、次いで「きり傷」（73件）、「ねんざ」（67件）であった [p12・表2-1-1]。症状ごとに負傷した部位と負傷の要因をみると、それぞれ多かった部位や要因は表1-1のとおりである [p14・表2-2-1、p15・表2-2-3]。

表1-1. 負傷の症状別にみた負傷した部位と負傷の要因（上位3項目）

症 状	部 位	要 因
1. 「打撲」 (90件)	1. 「頭」（35件） 2. 「手・指」（12件） 3. 「顔」「足・指」（8件）	1. 「不注意（本人）」（49件） 2. 「注意不足（指導者）」（25件） 3. 「不慣れ（本人）」（21件）
2. 「きり傷」 (73件)	1. 「手・指」（47件） 2. 「顔」（12件） 3. 「頭」（7件）	1. 「不注意（本人）」（35件） 2. 「不慣れ（本人）」（34件） 3. 「注意不足（指導者）」（26件）
3. 「ねんざ」 (67件)	1. 「足首」（60件） 2. 「手首」（4件） 3. 「首」「膝」「足・指」（1件）	1. 「不注意（本人）」（30件） 2. 「不慣れ（本人）」（21件） 3. 「失敗（本人）」（20件）

- 負傷の発生件数が多かった活動は「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」（90件）、次いで「野外炊事」（66件）、「創作活動（クラフト等）」（42件）であった。[p9・表1-6]
- 活動内容ごとに発生した負傷の症状をみると、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「ねんざ」（24件）、「打撲」（17件）、「突き指」（10件）、野外炊事では「やけど」（32件）、「きり傷」（19件）、「虫さされ」（8件）、創作活動（クラフト等）では「きり傷」（19件）、「やけど」（14件）、「さし傷」（5件）による負傷が多くなっていた。[p19・表2-3-4]

(3) 疾病の概況

- 疾病で多かった症状は「発熱」（149件）で、次いで「頭痛」（88件）、「嘔吐」（77件）であった。なお、発熱の理由を尋ねたところ、熱中症による発熱は17件と発熱の1割強を占めていた。[p27・表3-1-1]
- 症状ごとに発症した要因をみると、発熱では「疲労（本人）」（84件）、「不安・心配・緊張（本人）」（22件）、「気温（環境）」（18件）、頭痛では「疲労（本人）」（46件）、「気温（環境）」（33件）、「日差し（環境）」（25件）、嘔吐では「疲労（本人）」（29件）、「不安・心配・緊張（本人）」（15件）、「不慣れ（本人）」（14件）による発症が多くなっていた。[p28・表3-2-1]

(4) 負傷の発生件数・割合の推移（前回調査との比較）

- ・症状別にみると（表 1-2）、「打撲」の順位が上がった一方、これまでの調査で上位にあった「虫さされ」の順位は大きく下がった。なお、平成 30 年度調査、令和元年度調査では「打撲」が一位であったことから、前回調査で下がった順位が再び上がった状況になっている。
- ・活動内容別にみると（表 1-3）、「スポーツ活動」「野外炊事」「自由時間」における負傷が上位を占める傾向は変わらないものの、前回調査に続き、「創作活動（クラフト等）」による負傷の順位がさらに上がった。一方、これまで上位にあった「登山・ハイキング」による負傷の順位は大きく下がった。
- ・活動場所別にみると（表 1-4）、過去の調査と同様、「屋外運動コース」「グラウンド・広場・コート等」「体育館・プレイホール・講堂」「野外炊飯場」における負傷が上位を占めていた。

表 1-2. 症状別負傷発生件数・割合の推移（上位 10 項目）

令和2年度(前回調査)				令和3年度(今回調査)			
順位	症状	件	%	順位	症状	件	%
1	虫さされ	36	18.8	1	打撲	90	18.3
2	きり傷	34	17.8	2	きり傷	73	14.9
3	打撲	30	15.7	3	ねんざ	67	13.6
4	ねんざ	22	11.5	4	やけど	59	12.0
5	すり傷	17	8.9	5	虫さされ	53	10.8
6	やけど	12	6.3	6	すり傷	39	7.9
6	骨折	12	6.3	7	骨折	30	6.1
8	さし傷	9	4.7	8	さし傷	22	4.5
9	靭帯損傷・断裂	3	1.6	9	突き指	13	2.6
9	脱臼	3	1.6	10	鼻血	5	1.0
9	鼻血	3	1.6				

表 1-3. 活動内容別負傷発生件数・割合の推移（上位 10 項目）

令和2年度(前回調査)				令和3年度(今回調査)			
順位	活動	件	%	順位	活動	件	%
1	登山・ハイキング	30	15.7	1	スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	90	18.3
2	スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	26	13.6	2	野外炊事	66	13.4
3	自由時間	21	11.0	3	創作活動(クラフト等)	42	8.6
4	野外炊事	20	10.5	4	自由時間	38	7.7
5	創作活動(クラフト等)	19	9.9	5	オリエンテーリング・ウォークラリー	35	7.1
6	移動中	17	8.9	6	登山・ハイキング	34	6.9
7	アドベンチャープログラム・インシアティブゲーム	8	4.2	7	移動中	29	5.9
8	オリエンテーリング・ウォークラリー	7	3.7	8	アドベンチャープログラム・インシアティブゲーム	14	2.9
9	キャンプファイヤー・キャンドルセレモニー	4	2.1	8	キャンプファイヤー・キャンドルセレモニー	14	2.9
9	自然観察	4	2.1	8	研修・学習活動	14	2.9
				8	就寝時間(起床時も含む)	14	2.9

表 1-4. 活動場所別負傷発生件数・割合の推移（上位 10 項目）

令和2年度(前回調査)

順位	場所	件	%
1	屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	38	19.9
2	グラウンド・広場・コート等	32	16.8
3	体育館・プレイホール・講堂	25	13.1
4	野外炊飯場	20	10.5
5	研修室・オリエンテーション室	17	8.9
6	通路・階段	12	6.3
7	宿泊室	10	5.2
8	敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	6	3.1
9	ロープスコース※	5	2.6
10	テントサイト	4	2.1

※アドベンチャープログラムで使用する活動場所

令和3年度(今回調査)

順位	場所	件	%
1	屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	82	16.7
2	体育館・プレイホール・講堂	74	15.1
2	グラウンド・広場・コート等	74	15.1
4	野外炊飯場	64	13.0
5	宿泊室	36	7.3
6	通路・階段	28	5.7
7	工作室・調理室等	23	4.7
8	研修室・オリエンテーション室	22	4.5
8	敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	22	4.5
10	海洋施設	12	2.4



2. 傷病の特徴と今後の安全対策

(1) 負傷の特徴と安全対策

<負傷の特徴>

- 負傷の多かった活動は「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」「野外炊事」「創作活動（クラフト等）」で、「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」ではねんざ、打撲、突き指が多く、「野外炊事」ではやけど、きり傷、虫さされ、「創作活動（クラフト等）」ではきり傷、やけど、さし傷による負傷が多くなっている。
- 活動で負傷した時の主な状況をみると、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「サッカーの練習中にスライディングをして手を骨折」「タグラグビーで方向転換した際にひざをひねり、靭帯を損傷」、野外炊事では「薪割りの際、指導とは違う方法でナタを使用して手を切った」「調理中に鍋の取っ手を持つとした際、軍手が溶けてやけど」、創作活動（クラフト等）では「グルーガンを使用中に指をやけど」「スプーン作りで持ち手を削っている時に支えていた左手を切った」といった状況で負傷している。

<今後の安全対策>

(研修支援における安全管理や安全指導の点検・改善)

- ここ数年、活動できていなかった利用団体については、子どもだけでなく、指導者・引率者自身も活動に対する理解や経験が不足していたり、経験があっても指導の感覚や危険に対する感受性が鈍っていたりすることが予想される。それにより、指導者・引率者による安全管理が不十分となり、今までだったら気づいていた危険な行為や状況に気づかず、軽微な負傷につながったり、安全指導を守れていないような状況が起きているのではないかと推察される。
- 施設においては、新型コロナウイルスの流行以前とは状況が異なり、利用者の活動に対する理解や経験などが不足していることを前提に、研修支援における安全管理や安全指導（事前打ち合わせやセーフティトーク等）の内容を点検し、必要に応じて改善を図る必要がある。

(活動前・活動中の安全指導の徹底と状況に応じた安全管理や安全対策の実施)

- 負傷の要因の大半は「本人」の要因（不注意、不慣れ、失敗等）が占めているものの、「指導者・引率者」の要因を指摘する回答も 2 割弱あることから、指導者・引率者等は以下の点に留意する必要がある。

- ・入所時や活動前の安全指導（施設ではどのような事故やけがが起きやすいのか、それらはどうすれば防げるのかをイメージしやすいように、具体例を交えて分かりやすく説明する等）を徹底し、利用者の安全意識の向上に努めるようにする。
 - ・活動前だけでなく、活動中も事故やけがの予兆を見逃さないよう危険の発見、把握に努め、状況に応じて適切な安全指導や安全対策を行うようにする。特に、活動の後半は慣れや疲れ等で気が緩みやすくなるため、参加者に適宜声をかけたり、休憩をとるように指導する。
- 施設では、事前打ち合わせやプログラム体験会等の際に、施設で起きやすい事故やけがとその安全対策をきちんと説明し、利用団体の指導者・引率者が適切な安全管理や安全指導を行えるように支援する。その際、指導者・引率者の人数や体制だけでなく、活動に対する理解や経験なども確認し、利用団体の状況に応じた支援を行うようにする。

（２）疾病の特徴と安全対策

＜疾病の特徴＞

- 発症した疾病の症状をみると、発熱、頭痛、嘔吐、腹痛が上位を占めており、いずれの症状も「疲労」が主な要因として挙げられている。
- 疾病が発症した時期をみると、6割以上が急に体調を崩しているが、疾病を申し出た者の2割強は朝や前日からなど事前に体調不良を感じている。
- 疾病が発症した後の対応をみると、疾病を申し出た者の約4割は帰宅している。

＜今後の安全対策＞

- 指導者は、施設での生活は体調を崩しやすい環境にあることを理解し、計画段階では、利用者の年齢や体力に合わせた無理のない活動計画を立てるとともに、利用期間中は、定期的に健康チェックを行い、疲れている様子がみられる利用者には適宜休憩を取らせ、体調を崩さないように配慮するなど、利用者の疲れ具合や体調に合わせた柔軟なプログラム運営を心がけるようにする。
- 特に、夏季に屋外でスポーツ活動を行う場合は熱中症に注意し、「気温・湿度が高い日は、長い時間、屋外で活動しない」「適宜、風通しのよい涼しい場所で休憩する」など、熱中症の正しい予防法を学び、普段から気をつけるようにする。

Ⅲ. 調査結果

1. 施設で発生した傷病の概況

(1) 施設で発生した傷病の件数

令和3年度の国立青少年教育施設（以下、「施設」という。）の利用者数は約86万人（国立オリンピック記念青少年センターを除く）であった。前年度は新型コロナウイルスの流行により利用者数が大幅に減少したが、令和3年度は回復傾向にあり、利用者数は約24万人増となった。

施設で発生した傷病の件数（表1-1）は985件（男性491件、女性494件）で、そのうち、研修支援^{※1}が891件（男性453件、女性438件）、教育事業^{※2}が86件（男性48件、女性38件）であった。傷病の件数の内訳をみると、負傷が491件（男性289件、女性202件）、疾病が494件（男性217件、女性277件）となっており、前年度（負傷191件、疾病243件）に比べ、負傷が300件、疾病が251件増加した。ただし、令和3年度は、前年度に比べ、利用者数も増加していることから、傷病の発生件数の増加もその影響を受けていることに留意する必要がある。

表1-1. 負傷・疾病別・事業種別傷病の発生件数 (件)

事業別	負 傷			疾 病			計		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
研修支援	432	253	179	459	200	259	891	453	438
教育事業	54	33	21	32	15	17	86	48	38
不 明	5	3	2	3	2	1	8	5	3
計	491	289	202	494	217	277	985	506	479

※1 研修支援：学校や青少年団体、青少年教育関係者等の研修目的達成に向けて、広く学習の場や機会を提供し、より効果的なプログラムの提案や教育的指導、助言等を行うこと。

※2 教育事業：青少年の課題や国の政策課題に対応しつつ、立地条件及び地域特性やニーズに対応した、青少年の体験活動事業や青少年教育指導者等の養成研修事業を行うこと。

(2) 年齢期別にみた傷病の発生件数・割合

傷病者の年齢期ごとに傷病の発生件数をみたところ（表1-2）、負傷、疾病ともに「小学生」（負傷281件、疾病263件）が最も多く、傷病の発生件数のおよそ5割半を占めている。

表1-2. 年齢期別傷病発生件数・割合

年齢期	負 傷		疾 病		計	
	件	%	件	%	件	%
幼児	22	4.5	22	4.5	44	4.5
小学生	281	57.2	263	53.2	544	55.2
中学生	92	18.7	102	20.6	194	19.7
高校生	28	5.7	47	9.5	75	7.6
大学生等	25	5.1	38	7.7	63	6.4
社会人	43	8.8	19	3.8	62	6.3
その他	0	0.0	2	0.4	2	0.2
不明	0	0.0	1	0.2	1	0.1
計	491	100.0	494	100.0	985	100.0

(3) 月別にみた傷病の発生件数・割合

月ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-3）、負傷では「7月」（104件）が最も多く、次いで「10月」（101件）、「11月」（68件）となっており、施設で発生した負傷のおよそ5割半を占めていた。また、疾病でも同様の傾向がみられ、「7月」（99件）が最も多く、次いで「10月」と「11月」がともに69件となっており、施設で発生した疾病の5割弱を占めていた。

表 1-3. 月別傷病発生件数・割合

月	負傷		疾病		計		
	件	%	件	%	件	%	
春・夏	4月	22	4.5	49	9.9	71	7.2
	5月	34	6.9	42	8.5	76	7.7
	6月	36	7.3	52	10.5	88	8.9
	7月	104	21.2	99	20.0	203	20.6
	8月	48	9.8	47	9.5	95	9.6
	9月	19	3.9	17	3.4	36	3.7
秋・冬	10月	101	20.6	69	14.0	170	17.3
	11月	68	13.8	69	14.0	137	13.9
	12月	21	4.3	18	3.6	39	4.0
	1月	9	1.8	10	2.0	19	1.9
	2月	7	1.4	7	1.4	14	1.4
	3月	22	4.5	15	3.0	37	3.8
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
計	491	100.0	494	100.0	985	100.0	

(4) 利用期間別にみた傷病の発生件数・割合

利用期間ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-4-1）、負傷、疾病ともに「1泊2日」（負傷 252件、疾病 277件）が最も多く、次いで「2泊3日」（負傷 125件、疾病 118件）、「日帰り」（負傷 70件、疾病 55件）が多くなっている。

泊数別に傷病の発生日をみたところ（表 1-4-2、表 1-4-3）、負傷・疾病ともに、1泊2日では「1日目」（負傷 156件、疾病 163件）、2泊3日では「2日目」（負傷 74件、疾病 68件）に傷病の発生が多くなる傾向がみられ、いずれも傷病発生件数のおよそ6割を占めていた。

表 1-4-1. 利用期間別傷病発生件数・割合

利用期間	負傷		疾病		計		
	件	%	件	%	件	%	
日帰り	70	14.3	55	11.1	125	12.7	
宿泊	1泊2日	252	51.3	277	56.1	529	53.7
	2泊3日	125	25.5	118	23.9	243	24.7
	3泊4日	17	3.5	25	5.1	42	4.3
	4泊5日	18	3.7	9	1.8	27	2.7
	5泊6日	2	0.4	2	0.4	4	0.4
	6泊7日	0	0.0	2	0.4	2	0.2
	7泊8日以上	6	1.2	4	0.8	10	1.0
	不明	1	0.2	2	0.4	3	0.3
計	491	100.0	494	100.0	985	100.0	

表 1-4-2. 泊数別・発生日別負傷発生件数・割合

発生日	1泊2日		2泊3日		3泊4日		4泊5日	
	件	%	件	%	件	%	件	%
1日目	156	61.9	38	30.4	1	5.9	5	27.8
2日目	96	38.1	74	59.2	8	47.1	4	22.2
3日目			13	10.4	6	35.3	2	11.1
4日目					2	11.8	6	33.3
5日目							1	5.6
計	252	100.0	125	100.0	17	100.1	18	100.0

表 1-4-3. 泊数別・発生日別疾病発生件数・割合

発生日	1泊2日		2泊3日		3泊4日		4泊5日	
	件	%	件	%	件	%	件	%
1日目	163	59.1	38	32.2	5	20.0	3	33.3
2日目	113	40.9	68	57.6	6	24.0	0	0.0
3日目			12	10.2	9	36.0	2	22.2
4日目					5	20.0	2	22.2
5日目							2	22.2
計	276	100.0	118	100.0	25	100.0	9	100.0

(5) 時間別にみた傷病の発生件数・割合

時間ごとに傷病の発生件数をみたところ(表 1-5)、負傷では「11時」(72件)が最も多く、次いで「15時」(59件)、「10時」(53件)となっている。一方、疾病でも「11時」(49件)が最も多くなっており、次いで「12時」(38件)、「13時」(37件)となっている。

表 1-5. 時間別傷病発生件数・割合

時間		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
起床・朝食等	6時	6	1.2	14	2.8	20	2.0
	7時	9	1.8	26	5.3	35	3.6
	8時	7	1.4	33	6.7	40	4.1
活動(午前)	9時	14	2.9	28	5.7	42	4.3
	10時	53	10.8	34	6.9	87	8.8
	11時	72	14.7	49	9.9	121	12.3
昼食	12時	46	9.4	38	7.7	84	8.5
活動(午後)	13時	29	5.9	37	7.5	66	6.7
	14時	42	8.6	34	6.9	76	7.7
	15時	59	12.0	28	5.7	87	8.8
	16時	50	10.2	13	2.6	63	6.4
夕食・入浴等	17時	24	4.9	20	4.0	44	4.5
	18時	18	3.7	25	5.1	43	4.4
活動(夜)	19時	18	3.7	26	5.3	44	4.5
	20時	25	5.1	27	5.5	52	5.3
	21時	11	2.2	17	3.4	28	2.8
	22時	8	1.6	25	5.1	33	3.4
就寝	23~5時	0	0.0	20	4.0	20	2.0
不明		0	0.0	0	0.0	0	0.0
計		491	100.0	494	100.0	985	100.0

※上記(左)の時間帯は施設の標準的な生活時間帯を示している。

(6) 活動内容別にみた傷病の発生件数・割合

活動内容ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-6）、負傷では「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」（90 件）が最も多く全体の 2 割弱を占めており、次いで「野外炊事」（66 件）、「創作活動（クラフト等）」（42 件）となっている。一方、疾病では「就寝時間（起床時間も含む）」（63 件）が最も多く、次いで「食事」（59 件）、「研修・学習活動」（57 件）となっている。

表 1-6. 活動内容別傷病発生件数・割合

活動		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
陸上活動	登山・ハイキング	34	6.9	20	4.0	54	5.5
	オリエンテーリング・ウォークラリー	35	7.1	50	10.1	85	8.6
	クロスカントリー	2	0.4	0	0.0	2	0.2
	サイクリング・マウンテンバイク	10	2.0	1	0.2	11	1.1
	アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	14	2.9	12	2.4	26	2.6
	クライミング・ボルダリング	1	0.2	2	0.4	3	0.3
	スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）	90	18.3	30	6.1	120	12.2
水辺活動	カッター・カヌー・ボート・ヨット	8	1.6	17	3.4	25	2.5
	シュノーケリング・スキndaイビング	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	海水浴・磯遊び・釣り	3	0.6	1	0.2	4	0.4
	沢登り・川遊び	9	1.8	3	0.6	12	1.2
雪上活動	スキー・スノーボード	1	0.2	3	0.6	4	0.4
	クロスカントリースキー	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	雪上活動（雪遊び、スノーシュー等）	6	1.2	0	0.0	6	0.6
野外生活	野外炊事	66	13.4	18	3.6	84	8.5
	キャンプ（テント設営等）	3	0.6	0	0.0	3	0.3
	キャンプファイヤー・キャンドルセレモニー	14	2.9	9	1.8	23	2.3
	創作活動（クラフト等）	42	8.6	16	3.2	58	5.9
	自然観察	5	1.0	5	1.0	10	1.0
研修	研修・学習活動	14	2.9	57	11.5	71	7.2
	奉仕活動	0	0.0	1	0.2	1	0.1
生活	自由時間	38	7.7	42	8.5	80	8.1
	つどい（朝・夕）	0	0.0	1	0.2	1	0.1
	清掃	3	0.6	11	2.2	14	1.4
	食事	4	0.8	59	11.9	63	6.4
	入浴	8	1.6	8	1.6	16	1.6
	就寝時間（起床時も含む）	14	2.9	63	12.8	77	7.8
	移動中	29	5.9	25	5.1	54	5.5
その他	入所前	0	0.0	11	2.2	11	1.1
	その他	36	7.3	19	3.8	55	5.6
不明		2	0.4	10	2.0	12	1.2
計		491	100.0	494	100.0	985	100.0

(7) 場所別にみた傷病の発生件数・割合

場所ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-7）、負傷では「屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）」（82 件）が最も多く、次いで「グラウンド・広場・コート等」「体育館・プレイホール・講堂」（ともに 74 件）、「野外炊事場」（64 件）となっている。一方、疾病では、「宿泊室」（128 件）が最も多く、次いで「屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）」（61 件）、「体育館・プレイホール・講堂」（52 件）となっている。

表 1-7. 場所別傷病発生件数・割合

場所		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
生活 エリア	宿泊室	36	7.3	128	25.9	164	16.6
	通路・階段	28	5.7	6	1.2	34	3.5
	食堂	2	0.4	49	9.9	51	5.2
	浴室	8	1.6	7	1.4	15	1.5
活動 エリア	研修室・オリエンテーション室	22	4.5	48	9.7	70	7.1
	体育館・プレイホール・講堂	74	15.1	52	10.5	126	12.8
	武道場	2	0.4	3	0.6	5	0.5
	クライミングウォール	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	工作室・調理室等	23	4.7	5	1.0	28	2.8
	野外炊飯場	64	13.0	20	4.0	84	8.5
	テントサイト	8	1.6	0	0.0	8	0.8
	グラウンド・広場・コート等	74	15.1	39	7.9	113	11.5
	屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）	82	16.7	61	12.3	143	14.5
	ロープスコース※	5	1.0	1	0.2	6	0.6
	海洋施設	12	2.4	17	3.4	29	2.9
その他	敷地外の活動場所（バス等の移動も含む）	22	4.5	36	7.3	58	5.9
	その他	29	5.9	17	3.4	46	4.7
不明		0	0.0	5	1.0	5	0.5
計		491	100.0	494	100.0	985	100.0

※アドベンチャープログラムで使用する活動場所

(8) 天候別にみた傷病の発生件数・割合

天候ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-8）、負傷、疾病ともに「晴」（負傷 288 件、疾病 296 件）が最も多く、次いで「曇」（負傷 128 件、疾病 116 件）、「雨」（負傷 69 件、疾病 69 件）となっている。

表 1-8. 天候別傷病発生件数・割合

天候	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
晴	288	58.7	296	59.9	584	59.3
曇	128	26.1	116	23.5	244	24.8
雨	69	14.1	69	14.0	138	14.0
雪	6	1.2	13	2.6	19	1.9
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	491	100.0	494	100.0	985	100.0

(9) 病院受診、処置・静養後の対応別にみた傷病の発生件数・割合

病院受診の有無別に傷病の発生件数をみたところ（表 1-9-1）、負傷では「無」が 348 件、「日帰り」が 138 件、「入院」が 3 件となっており、病院を受診（日帰り、入院）した割合は 3 割弱となっている。一方、疾病は「無」が 437 件、「日帰り」が 50 件となっており、病院の受診（日帰り、入院）はおおよそ 1 割強となっている。

次に、傷病の処置・静養後の対応別に傷病の発生件数をみたところ（表 1-9-2）、負傷では「活動継続」が 407 件、「帰宅」が 81 件と 8 割以上が活動を継続しているのに対し、疾病では「活動継続」が 296 件、「帰宅」が 192 件と 4 割弱が帰宅している状況であった。

表 1-9-1. 病院受診別傷病発生件数・割合

病院の受診	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
無	348	70.9	437	88.5	785	79.7
日帰り	138	28.1	50	10.1	188	19.1
入院	3	0.6	3	0.6	6	0.6
計	491	100.0	494	100.0	985	100.0

表 1-9-2. 処置・静養後の対応別傷病発生件数・割合

処置・静養後	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
活動継続	407	82.9	296	59.9	703	71.4
帰宅	81	16.5	192	38.9	273	27.7
死亡	3	0.6	6	1.2	9	0.9
計	491	100.0	494	100.0	985	100.0

2. 負傷の概況

(1) 負傷の状態

負傷の症状をみると（表 2-1-1）、「打撲」（90 件）が最も多く、次いで「きり傷」（73 件）、「ねんざ」（67 件）となっている。「虫さされ」の種類をみると（表 2-1-2）、「アブ・ブヨ」（24 件）が最も多く 4 割半を占め、次いで「ハチ」（14 件）、「ダニ」（8 件）となっている。

負傷した部位をみると（表 2-1-3）、「手・指」（163 件）が最も多く、次いで「足首」（79 件）、「頭」（48 件）となっている。各部位の区分でみると、「上肢部」（218 件）が 4 割半近くを占めており、次いで「下肢部」（164 件）がおおよそ 3 割強、「頭部」（94 件）が 2 割弱となっている。

表 2-1-1. 症状別負傷発生件数・割合

症状	件	%
きり傷	73	14.9
さし傷	22	4.5
すり傷	39	7.9
やけど	59	12.0
日焼け	0	0.0
凍傷	0	0.0
打撲	90	18.3
突き指	13	2.6
ねんざ	67	13.6
靭帯損傷・断裂	2	0.4
脱臼	0	0.0
骨折	30	6.1
鼻血	5	1.0
歯の破折	2	0.4
眼のけが	3	0.6
虫さされ	53	10.8
かぶれ	3	0.6
気道閉塞・誤嚥	0	0.0
溺水	0	0.0
その他	30	6.1
計	491	100.0

<その他>

肉離れ・腰痛、爪はがれ等

表 2-1-3. 部位別負傷発生件数・割合

部位	件	%	%	
頭部	頭	48	9.8	19.1
	顔	33	6.7	
	眼	6	1.2	
	首	7	1.4	
上肢部	肩	4	0.8	44.4
	上腕	4	0.8	
	肘	13	2.6	
	前腕	18	3.7	
	手首	16	3.3	
	手・指	163	33.2	
体幹部	胸	0	0.0	2.4
	腹	2	0.4	
	背中	2	0.4	
	腰	8	1.6	
下肢部	尻	0	0.0	33.4
	大腿	11	2.2	
	膝	26	5.3	
	下腿	25	5.1	
	足首	79	16.1	
	足・指	23	4.7	
全身	0	0.0	0.0	
不明	3	0.6	0.6	
計	491	100.0		

表 2-1-2. 「虫さされ」の種類

種類	件	%
アブ・ブヨ	24	45.3
ハチ	14	26.4
ダニ	8	15.1
毛虫	2	3.8
ムカデ	1	1.9
クラゲ	0	0.0
その他	4	7.5
不明	0	0.0
計	53	100.0

表 2-1-4. 程度別負傷発生件数・割合

程度	件	%
軽微(その場で手当てできる軽いけが)	357	72.7
軽傷(医師による1か月未満の治療を要するけが)	108	22.0
重傷(医師による1か月以上の治療を要するけが)	19	3.9
致命傷(死亡・後遺症が残る重篤なけが)	0	0.0
不明	7	1.4
計	491	100.0

負傷の程度をみると（表 2-1-4）、「軽微（その場で手当てできる軽いけが）」（357 件）が最も多く、発生した負傷のおよそ 7 割強は軽微な負傷となっている。

負傷の要因（複数回答）をみると（表 2-1-5）、「不注意（本人）」（226 件）が最も多く、次いで「不慣れ（本人）」（143 件）、「注意不足（指導者）」（132 件）となっている。各要因の区分でみると、本人に係る要因（550 件）が 56.4%となっており、次いで指導・引率者に係る要因（212 件）が 21.7%、環境に係る要因（130 件）が 13.3%、装備に係る要因（48 件）が 4.9%となっていた。

表 2-1-5. 要因別負傷発生件数・割合 (複数回答)

要因		件	%	%
本人	失敗	86	17.5	56.4
	不注意	226	46.0	
	不慣れ	143	29.1	
	不適切な行動	32	6.5	
	寝不足	1	0.2	
	疲労	27	5.5	
	不安・心配・緊張	7	1.4	
	体力不足	12	2.4	
	人間関係(けんか、ふざけ等)	11	2.2	
	既往症	4	0.8	
	アレルギー	1	0.2	
指導・引率者	指導不足	50	10.2	21.7
	注意不足	132	26.9	
	経験不足	13	2.6	
	人数不足	9	1.8	
	連携不足	2	0.4	
	準備不足	6	1.2	
装備	不適切な服装	15	3.1	4.9
	装備不備	19	3.9	
	装備不良(破損・劣化)	8	1.6	
	施設・設備の欠陥・不良	6	1.2	
環境	荒天(強風、雷、吹雪等)	6	1.2	13.3
	気温	8	1.6	
	日差し	6	1.2	
	高度(標高)	0	0.0	
	水深	0	0.0	
	雪	4	0.8	
	落石・落木	0	0.0	
	不安定さ・滑りやすさ	46	9.4	
	虫・動物	50	10.2	
	植物	9	1.8	
	病原体(ウイルス等)	1	0.2	
その他	20	4.1	2.1	
不明	15	3.1	1.5	
回答者数		491		↑

※上記の数値は回答数(N=975)を基に割合を算出

(2) 症状別にみた負傷の部位、程度、要因

症状ごとに負傷した部位をみると(表2-2-1)、打撲では「頭」(35件)や「手・指」(12件)などの負傷が多く、きり傷では「手・指」(47件)や「顔」(12件)、ねんざでは「足首」(60件)や「手首」(4件)といった部位の負傷が多くなっている。

次に、症状ごとに負傷の程度をみると(表2-2-2)、ほとんどの症状では「軽微」が多くなっているが、骨折などでは「軽症」や「重傷」の割合が高くなっている。

表2-2-1. 症状別・部位別負傷発生件数 (件)

部位		きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
頭部	頭	7	0	1	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	2	48
	顔	12	0	2	0	0	0	8	0	0	0	0	0	5	2	0	2	1	0	0	1	33
	眼	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	6
	首	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	1	7
上肢部	肩	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	4
	上腕	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	4
	肘	0	0	6	0	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	13
	前腕	0	0	2	6	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	5	1	0	0	0	18
	手首	0	0	0	0	0	0	2	0	4	0	0	9	0	0	0	1	0	0	0	0	16
手・指	47	19	9	48	0	0	12	10	0	0	0	6	0	0	0	5	1	0	0	6	163	
体幹部	胸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腹	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	背中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	腰	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3	8
下肢部	尻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大腿	0	0	1	3	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	2	11
	膝	1	0	12	0	0	0	4	0	1	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	4	26
	下腿	1	0	3	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	3	25
	足首	0	0	0	0	0	0	3	1	60	1	0	7	0	0	0	5	0	0	0	2	79
	足・指	3	3	2	0	0	0	8	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	23
全身	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
不明	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3	
計	73	22	39	59	0	0	90	13	67	2	0	30	5	2	3	53	3	0	0	30	491	

表2-2-2. 症状別・程度別負傷発生件数 (件)

程度	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
軽微	46	18	38	47	0	0	73	9	53	0	0	0	5	0	2	42	2	0	0	22	357
軽傷	27	4	1	11	0	0	14	4	14	1	0	13	0	2	1	9	1	0	0	6	108
重傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	17	0	0	0	0	0	0	0	1	19
致命傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	7
計	73	22	39	59	0	0	90	13	67	2	0	30	5	2	3	53	3	0	0	30	491

症状ごとに負傷の要因（複数回答）をみると（表 2-2-3）、打撲では「不注意（本人）」（49 件）や「注意不足（指導者）」（25 件）による負傷が多くなっており、次いで、きり傷やねんざでは「不注意（本人）」（きり傷 35 件、ねんざ 30 件）や「不慣れ（本人）」（きり傷 34 件、ねんざ 21 件）による負傷が多くなっている。

表 2-2-3. 症状別・要因別負傷発生件数

（複数回答：件）

要因	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	
本人	失敗	17	2	8	3	0	0	19	5	20	1	0	9	1	0	0	0	0	0	0	1
	不注意	35	15	19	38	0	0	49	5	30	2	0	9	0	0	3	11	2	0	0	8
	不慣れ	34	11	7	22	0	0	21	4	21	0	0	6	0	1	0	8	1	0	0	7
	不適切な行動	8	0	6	5	0	0	7	0	2	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0
	寝不足	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	疲労	0	1	1	0	0	0	4	0	9	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	9
	不安・心配・緊張	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1
	体力不足	0	1	0	0	0	0	2	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5
	人間関係	2	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	既往症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	アレルギー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
指導・引率者	指導不足	15	0	4	18	0	0	5	0	3	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	2
	注意不足	26	10	14	25	0	0	25	4	12	0	0	4	1	0	1	4	1	0	0	5
	経験不足	4	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	1
	人数不足	2	0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	連携不足	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	準備不足	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
装備	不適切な服装	0	0	4	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	2
	装備不備	5	0	3	4	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	1
	装備不良	1	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
	施設・設備の欠陥・不良	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
環境	荒天	1	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	気温	2	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	日差し	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1
	高度(標高)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	水深	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	雪	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	落石・落木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不安定さ・滑りやすさ	4	0	5	0	0	0	12	0	13	0	0	9	0	1	0	0	0	0	0	2
	虫・動物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	0	0	0
	植物	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	1
病原体(ウイルス等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
その他	1	0	2	5	0	0	3	1	3	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	1	
不明	2	1	2	2	0	0	3	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
回答者数(N=491)	73	22	39	59	0	0	90	13	67	2	0	30	5	2	3	53	3	0	0	30	

(3) 状況別・症状別にみた負傷の発生件数

① 年齢期別・性別・症状別にみた負傷の発生件数

負傷者の年齢期ごとに発生した負傷の症状をみたところ(表2-3-1)、小学生は「打撲」(60件)、「きり傷」(51件)、「やけど」(38件)、中学生は「ねんざ」(22件)、「打撲」(19件)、「すり傷」(10件)による負傷が多くなっている。

男女で負傷の症状を比較すると、男性は「きり傷」(52件)、「さし傷」(18件)、「打撲」(54件)、「骨折」(19件)、「虫さされ」(31件)などによる負傷が女性に比べて多くなっている。

表2-3-1. 年齢期・性別・症状別負傷発生件数

(件)

性別		きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
幼児	全体	4	4	3	2	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	22
	男	2	3	1	1	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	14
	女	2	1	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	8
小学生	全体	51	14	21	38	0	0	60	6	26	0	0	17	5	1	1	27	1	0	0	13	281
	男	33	12	10	16	0	0	39	1	11	0	0	11	5	1	0	17	1	0	0	11	168
	女	18	2	11	22	0	0	21	5	15	0	0	6	0	0	1	10	0	0	0	2	113
中学生	全体	6	3	10	8	0	0	19	3	22	2	0	6	0	0	0	8	1	0	0	4	92
	男	6	2	7	6	0	0	9	3	7	1	0	5	0	0	0	4	0	0	0	3	53
	女	0	1	3	2	0	0	10	0	15	1	0	1	0	0	0	4	1	0	0	1	39
高校生	全体	3	0	2	2	0	0	2	1	9	0	0	1	0	1	1	3	0	0	0	3	28
	男	3	0	2	1	0	0	0	0	7	0	0	1	0	1	0	3	0	0	0	1	19
	女	0	0	0	1	0	0	2	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	9
大学生等	全体	4	0	2	2	0	0	2	1	5	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	4	25
	男	3	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8
	女	1	0	1	1	0	0	2	0	5	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	2	17
社会人	全体	5	1	1	7	0	0	2	2	4	0	0	6	0	0	1	8	0	0	0	6	43
	男	5	1	0	5	0	0	1	2	3	0	0	2	0	0	1	5	0	0	0	2	27
	女	0	0	1	2	0	0	1	0	1	0	0	4	0	0	0	3	0	0	0	4	16
その他	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	全体	73	22	39	59	0	0	90	13	67	2	0	30	5	2	3	53	3	0	0	30	491
	男	52	18	21	30	0	0	54	7	28	1	0	19	5	2	1	31	1	0	0	19	289
	女	21	4	18	29	0	0	36	6	39	1	0	11	0	0	2	22	2	0	0	11	202

② 月別・症状別にみた負傷の発生件数

月ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-2）、7月と8月は「虫さされ」（7月 21件、8月 8件）や「きり傷」（7月 22件、8月 5件）による負傷が多く、10月と11月は「打撲」（10月 24件、11月 23件）や「やけど」（10月 18件、11月 7件）による負傷が多くなっている。

表 2-3-2. 月別・症状別負傷発生件数

(件)

月		きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
春・夏	4月	4	1	2	1	0	0	4	1	4	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	2	22
	5月	3	0	2	3	0	0	6	0	8	0	0	1	0	0	0	7	2	0	0	2	34
	6月	6	1	0	4	0	0	8	0	8	0	0	2	0	0	0	6	0	0	0	1	36
	7月	22	1	12	14	0	0	9	6	11	0	0	4	1	1	0	21	0	0	0	2	104
	8月	5	2	4	6	0	0	4	1	7	1	0	2	1	0	0	8	1	0	0	6	48
	9月	1	1	2	3	0	0	2	0	4	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	2	19
秋・冬	10月	13	5	14	18	0	0	24	1	8	0	0	9	0	0	0	8	0	0	0	1	101
	11月	6	9	2	7	0	0	23	2	9	1	0	6	1	0	1	0	0	0	0	1	68
	12月	6	0	0	3	0	0	1	1	4	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	2	21
	1月	4	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9
	2月	2	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7
	3月	1	2	0	0	0	0	6	0	2	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	8	22
不明		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		73	22	39	59	0	0	90	13	67	2	0	30	5	2	3	53	3	0	0	30	491

③ 時間別・症状別にみた負傷の発生件数

時間ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-3）、発生件数の多かった 11 時では「打撲」（13 件）や「きり傷」（10 件）、15 時では「ねんざ」（14 件）や「打撲」（11 件）などによる負傷が多くなっている。そこで、活動時間帯ごとに発生件数の多かった症状をみると、午前の活動時間帯（9～11 時）では「打撲」（28 件）や「きり傷」（24 件）、午後の活動時間帯（13～16 時）では「打撲」と「ねんざ」（ともに 33 件）、「やけど」（22 件）夜の活動時間帯（19～22 時）では「打撲」（12 件）、「きり傷」と「やけど」（ともに 10 件）による負傷が多くなっている。

表 2-3-3. 時間別・症状別負傷発生件数

(件)

時間	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
起床・朝食等	6時	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	6
	7時	2	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	9
	8時	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	7
活動(午前)	9時	1	0	1	1	0	7	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	14
	10時	13	4	3	4	0	8	2	5	1	0	3	1	0	0	7	0	0	0	2	53
	11時	10	7	4	8	0	13	2	9	0	0	5	1	0	1	4	2	0	0	6	72
昼食	12時	13	1	3	4	0	9	3	3	0	0	3	1	0	0	4	0	0	0	2	46
活動(午後)	13時	5	1	4	4	0	4	1	4	0	0	2	0	1	0	2	0	0	0	1	29
	14時	4	0	6	6	0	8	0	7	0	0	4	0	0	1	4	0	0	0	2	42
	15時	7	3	6	6	0	11	2	14	1	0	3	0	0	0	6	0	0	0	0	59
	16時	4	4	3	6	0	10	1	8	0	0	3	0	1	0	8	0	0	0	2	50
夕食・入浴等	17時	2	1	4	4	0	2	0	2	0	0	3	0	0	0	2	1	0	0	3	24
	18時	1	0	1	5	0	3	0	2	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2	18
活動(夜)	19時	4	0	0	4	0	0	1	5	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	18
	20時	2	1	1	5	0	5	0	2	0	0	0	1	0	0	6	0	0	0	2	25
	21時	2	0	0	1	0	6	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	11
	22時	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	8
就寝	23～5時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		73	22	39	59	0	90	13	67	2	0	30	5	2	3	53	3	0	0	30	491

※上記(左)の時間帯は施設の標準的な生活時間帯を示している。

④ 活動内容別、場所別・症状別にみた負傷の発生件数

活動内容ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-4）、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「ねんざ」（24 件）、「打撲」（17 件）、「突き指」（10 件）による負傷が多くなっており、次いで、野外炊事では「やけど」（32 件）、「きり傷」（19 件）、「虫さされ」（8 件）、創作活動（クラフト等）では「きり傷」（19 件）、「やけど」（14 件）、「さし傷」（5 件）による負傷が多くなっている。

場所ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-5）、屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）では「ねんざ」（18 件）、「虫さされ」と「すり傷」（ともに 13 件）、「打撲」（12 件）による負傷が多くなっており、次いで、グラウンド・広場・コート等では「打撲」（17 件）、「虫さされ」（12 件）、「ねんざ」（10 件）、体育館・プレイホール・講堂では「ねんざ」（19 件）、「打撲」（17 件）、「きり傷」と「突き指」（ともに 9 件）、による負傷が多くなっている。

表 2-3-4. 活動内容別・症状別負傷発生件数

(件)

活動	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	目のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
登山・ハイキング	1	3	2	0	0	0	2	0	12	0	0	4	0	1	1	5	1	0	0	2	34
オリエンテーリング、ウォークラリー	1	4	3	0	0	0	5	1	10	1	0	3	0	0	0	6	1	0	0	0	35
クロスカントリー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
サイクリング、マウンテンバイク	0	0	5	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	10
アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	0	2	0	0	0	0	9	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	14
クライミング、ボルダリング	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	5	0	7	0	0	0	17	10	24	1	0	9	2	1	1	5	0	0	0	8	90
カッター・カヌー・ボート・ヨット	1	1	1	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	8
シュノーケリング、スキューバダイビング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海水浴・磯遊び・釣り	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
沢登り・川遊び	2	0	0	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	9
スキー・スノーボード	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
クロスカントリースキー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雪上活動(雪遊び、スノーシュー等)	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6
野外炊事	19	0	2	32	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	8	0	0	0	2	66
キャンプ(テント設置等)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3
キャンプファイヤー・キャンドルセレモニー	2	0	0	9	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	14
創作活動(クラブ等)	19	5	1	14	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	42
自然観察	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5
研修・学習活動	2	0	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	2	14
奉仕活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自由時間	7	2	3	0	0	0	14	0	1	0	0	5	0	0	0	3	0	0	0	3	38
つどい(朝・夕)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
清掃	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3
食事	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
入浴	1	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	8
就寝時間(起床時も含む)	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	4	0	0	0	5	14
移動中	3	1	4	0	0	0	6	0	9	0	0	2	1	0	0	3	0	0	0	0	29
入所前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	5	1	7	3	0	0	6	1	2	0	0	2	0	0	0	7	0	0	0	2	36
不明	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	73	22	39	59	0	0	90	13	67	2	0	30	5	2	3	53	3	0	0	30	491

表 2-3-5. 場所別・症状別負傷発生件数

(件)

場所	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
宿泊室	4	1	0	0	0	0	11	0	2	0	0	3	1	0	0	0	6	0	0	0	22
生活通路・階段	5	1	5	0	0	0	3	0	8	1	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	36
食堂	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
ア 浴室	1	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
研修室・オリエンテーション室	5	0	0	10	0	0	5	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	8
体育館・プレイホール・講堂	9	1	1	2	0	0	17	9	19	1	0	5	2	0	1	2	0	0	0	0	74
武道場	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
クライミングウォール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
活動 工作室・調理室等	11	5	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
エ 野外炊事場	17	0	2	31	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0	6	0	0	0	0	64
リ テントサイト	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	8
ア グラウンド・広場・コート等	5	4	6	7	0	0	17	0	10	0	0	6	0	1	0	12	0	0	0	0	74
屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	5	7	13	0	0	0	12	1	18	0	0	7	0	0	1	13	2	0	0	3	82
ロープスコース※	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
海洋施設	1	1	4	0	0	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	12
敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	1	0	2	1	0	0	4	0	6	0	0	2	0	0	0	2	1	0	0	3	22
その他	6	0	5	0	0	0	6	1	3	0	0	1	0	1	0	5	0	0	0	1	29
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	73	22	39	59	0	0	90	13	67	2	0	30	5	2	3	53	3	0	0	30	491

※アドベンチャープログラムで使用する活動場所

⑤ 天候別・症状別にみた負傷の発生件数

天候ごとに発生した負傷した症状をみると（表 2-3-6）、晴では「打撲」（57件）、曇では「きり傷」（25件）、雨では「打撲」や「虫さされ」（ともに11件）による負傷が多くなっている。

表 2-3-6. 天候別・症状別負傷発生件数 (件)

天候	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
晴	38	18	32	38	0	0	57	6	36	2	0	15	0	1	2	27	1	0	0	15	288
曇	25	3	5	10	0	0	22	3	21	0	0	10	3	0	0	15	1	0	0	10	128
雨	8	1	2	10	0	0	11	4	8	0	0	5	2	1	1	11	1	0	0	4	69
雪	2	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	73	22	39	59	0	0	90	13	67	2	0	30	5	2	3	53	3	0	0	30	491

(4) 負傷した時の状況

① 負傷の多かった活動の事例（上位5つのうち、代表的な事例を抜粋して掲載）

〔スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）〕

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）/グラウンド・広場・コート等

症状	骨折(手首)	程度	重傷	傷病者	中学生・男
状況	サッカーの練習中、スライディングをした際、手が巻き込まれてしまい骨折した。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）/体育館・プレイホール・講堂

症状	骨折(手首)	程度	重傷	傷病者	社会人・女
状況	ボッチャ、ブラインドサッカーの審判をしていて転倒し、左手を床についた。終了15分前だったので帰宅したが、数時間後に病院を受診した結果、左手首の骨折と分かった。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）/グラウンド・広場・コート等

症状	きり傷(顔)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	パークゴルフ中に友達が振ったスティックが近くにいた左眉にあたり皮膚を切った。出血があり、救急車を手配。病院し3針縫った。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）/敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)

症状	骨折(肘)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	スノーボードの練習中に転倒し、左手を強く打った。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）/体育館・プレイホール・講堂

症状	靭帯損傷・断裂(膝)	程度	軽傷	傷病者	中学生・男
状況	体育館にて学年レク(タグラグビー)を行っていたところ、方向転換の際にひざを痛めた。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）/グラウンド・広場・コート等

症状	ねんざ(足首)	程度	軽傷	傷病者	大学生等・女
状況	スポーツで走っているときに、グラウンドの大きめの石を踏んで足をひねった。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）/体育館・プレイホール・講堂

症状	骨折(足首)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	バレエをしていて捻挫だと思いアイシングしていたが、病院を受診したら骨折していた。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）/体育館・プレイホール・講堂

症状	打撲(顔)	程度	軽微	傷病者	中学生・男
状況	Tボールをしていた時に、バッターが投げたバットが近くにいた生徒の右目あたりと歯に当たり、右ほほが少し腫れ、青あざになった。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）/グラウンド・広場・コート等

症状	虫刺され(首)	程度	軽微	傷病者	小学生・男
状況	マレットゴルフ場で茂みにボールを取りに行ったときに首を刺された。ハチかどうかは見えない。				

〔野外炊事〕

〔活動〕 野外炊事/工作室・調理室等

症状	きり傷(手・指)	程度	軽傷	傷病者	社会人・男
状況	指導を受けたにも関わらず違う方法でナタを使用し、薪割り中にけがをした。				

〔活動〕 野外炊事/研修室・オリエンテーション室

症状	やけど(手・指)	程度	軽傷	傷病者	社会人・女
状況	ヨーグルトづくりでお湯が沸騰してはねた際、手の甲から指にかけての範囲にはねた湯が落ちてきた。軍手をした手の上にお湯がかかったので、湯が軍手で広がり、広範囲にやけどした。				

〔活動〕 野外炊事/野外炊飯場

症状	やけど(手・指)	程度	軽傷	傷病者	中学生・女
状況	野外炊事中に、鍋を持ち火傷した。本人は軍手をしており、鍋の取手にも雑巾を巻いていたが熱くなっていたとのこと。				

〔活動〕 野外炊事/野外炊飯場

症状	やけど(手・指)	程度	軽傷	傷病者	中学生・女
状況	加熱中の鍋を、軍手をして濡れ雑巾を持って鍋を持ったが、持つ時間が長くなりやけどした。				

〔活動〕 野外炊事/野外炊飯場

症状	骨折(手首)	程度	軽傷	傷病者	社会人・男
状況	ピロティー横の残炭置き場で、レンガの上の雨でぬれていたコケに滑って左手をついたところ、左手首を痛めた。				

〔活動〕 野外炊事/野外炊飯場

症状	きり傷(手・指)	程度	軽微	傷病者	小学生・男
状況	野外炊事準備の際に包丁を保護するカバーを取ろうとしたときに刃が左手中指の先にあたり、切ってしまった。				

〔活動〕 野外炊事/野外炊飯場

症状	やけど(手・指)	程度	軽微	傷病者	社会人・男
状況	カレーを調理中に鍋の取手を持つとしたが、軍手が溶けてやけどをした。				

〔活動〕 野外炊事/野外炊飯場

症状	打撲(頭)	程度	軽微	傷病者	小学生・女
状況	野外炊飯で火おこしの活動をしていたところ、壁に立てかけていた鉄板が滑り、本人の頭上に倒れた。				

〔活動〕 野外炊事/野外炊飯場

症状	打撲(手・指)	程度	軽微	傷病者	小学生・女
状況	野外炊飯で使った鉄板を洗っている時に、鉄板が倒れてきて、洗い場の壁と鉄板の間に手が挟まった。				

〔活動〕 野外炊事/テントサイト

症状	虫刺され(手・指)	程度	軽微	傷病者	中学生・男
状況	グループごとに食事をするためベンチに着席したところ、テーブル下部にハチの巣があり、ハチにさされた。				

〔創作活動（クラフト等）〕

〔活動〕 創作活動(クラフト等)/工作室・調理室等

症状	きり傷(手・指)	程度	軽微	傷病者	小学生・男
状況	マイスプーン作りの際、持ち手の部分(木)を彫刻刀で削っているときに支えていた左手を切ってしまった。				

〔活動〕 創作活動(クラフト等)/工作室・調理室等

症状	さし傷(手・指)	程度	軽微	傷病者	小学生・男
状況	焼いた板を布で磨いている時にトゲが刺さった。				

〔活動〕 創作活動(クラフト等)/研修室・オリエンテーション室

症状	やけど(手・指)	程度	軽微	傷病者	幼児・女
状況	グルーガンを使用中に指をやけどした。				

〔活動〕 創作活動(クラフト等)/研修室・オリエンテーション室

症状	やけど(手・指)	程度	軽微	傷病者	小学生・男
状況	電熱ペンが左人差し指にあたり、やけどしてしまった。				

〔活動〕 創作活動(クラフト等)/野外炊飯場

症状	やけど(大腿)	程度	軽微	傷病者	小学生・女
状況	焼板作成中に、隣のバーナーが大腿部に当たってやけどした。				

〔活動〕 創作活動(クラフト等)/研修室・オリエンテーション室

症状	眼のけが(眼)	程度	軽微	傷病者	小学生・女
状況	室内で椅子に座りバッチづくりをしていた際、隣の子の持っていたペンが左目に当たってしまった。				

〔自由時間〕

〔活動〕 自由時間/宿泊室

症状	骨折(前腕)	程度	重傷	傷病者	小学生・男
状況	宿泊棟内で走り回っていて転んだ時に手をついて骨折した。				

〔活動〕 自由時間/グラウンド・広場・コート等

症状	骨折(足・指)	程度	重傷	傷病者	小学生・男
状況	施設の用具で遊んでいたら、着地に失敗して左足をひねり、左足小指の中足骨あたりを痛めた。				

〔活動〕 自由時間/テントサイト

症状	きり傷(頭)	程度	軽傷	傷病者	幼児・男
状況	椅子から降りたときに足がもつれて転倒し、東屋の土台の角にぶつめた。				

[活動] 自由時間/宿泊室

症状	打撲(頭)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	部屋で枕投げをしていて枕をよけた際に壁の角に頭をぶつけた。				

[活動] 自由時間/宿泊室

症状	きり傷(顔)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	ベッドの上で遊んでいてシーツが足にからまり、ベッドの柵に眉あたりがぶつかり切傷した。				

[活動] 自由時間/宿泊室

症状	打撲(頭)	程度	軽微	傷病者	中学生・男
状況	かくれんぼをしていて、ベッドの下に隠れようとして頭を打った。				

〔オリエンテーリング・ウォークラリー〕

[活動] オリエンテーリング・ウォークラリー/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	骨折(手首)	程度	重傷	傷病者	小学生・女
状況	スコアオリエンテーリングの山道を下っている途中にごつごつした石で足を滑らせ、右手をついた際、右手首を骨折した。				

[活動] オリエンテーリング・ウォークラリー/通路・階段

症状	靭帯損傷・断裂(足首)	程度	重傷	傷病者	中学生・女
状況	オリエンテーリング中に、体育館脇の側溝に落ち、足をひねってしまった。				

[活動] オリエンテーリング・ウォークラリー/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	打撲(前腕)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	ミニオリエンテーリング活動中、下り階段で滑って転倒した。その際、右前腕を捻ったような状態になり負傷				

[活動] オリエンテーリング・ウォークラリー/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	虫刺され(腰)	程度	軽傷	傷病者	社会人・男
状況	宿泊研修から帰校し、帰宅してから痛痒さがあることに気づき、確認すると左腰にダニが噛みついていました。				

[活動] オリエンテーリング・ウォークラリー/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	さし傷(手・指)	程度	軽微	傷病者	中学生・男
状況	石につまずいて転んだ際、手のひらに栗があたり、とげがささった。				

[活動] オリエンテーリング・ウォークラリー/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	ねんざ(足首)	程度	軽微	傷病者	小学生・女
状況	歩いているときに赤土のところで左足が滑り、右足が土のくぼみに入ってしまう右足首をひねってしまった。				

② その他の活動で特徴的だった事例

[活動] 登山・ハイキング/その他

症状	歯の破折(顔)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	下山している際に転び、顔を石にぶつけ、左上側切歯が抜けてしまった。受傷時、教員に報告せず、本人も歯がどこにいったかわからないまま下山し、ビジターセンターに到着後に養護教諭が確認し、医療機関を受診した。				

[活動] 雪上活動(雪遊び、スノーシュー等)/その他

症状	きり傷(顔)	程度	軽傷	傷病者	社会人・男
状況	チューブソリに子どもと二人乗りをして滑っていたが、バランスを崩し転倒した際に、顔面を凍結した雪の斜面にぶつけた。				

3. 疾病の概況

(1) 疾病の状態

疾病の症状をみると（表 3-1-1）、「発熱」（149 件）が最も多く、次いで「頭痛」（88 件）、「嘔吐」（77 件）となっている。なお、発熱の理由を尋ねたところ、熱中症による発熱は 17 件であった。

疾病が発症した要因（複数回答）をみると（表 3-1-2）、「疲労（本人）」（231 件）が最も多く、次いで「不安・心配・緊張（本人）」（101 件）、「気温（環境）」（86 件）となっており、本人に係る要因（574 件）がおおよそ 6 割強を占めていた。

疾病の発症時期をみると（表 3-1-3）、「急に」（310 件）が最も多く、次いで「今朝から」（83 件）、「前日から」（35 件）となっている。

表 3-1-1. 症状別疾病発生件数・割合

症状	件	%
発熱	149	30.2
咳・喉の痛み	8	1.6
くしゃみ・鼻水	3	0.6
喘息	3	0.6
過呼吸	6	1.2
頭痛	88	17.8
めまい	5	1.0
吐き気	30	6.1
嘔吐	77	15.6
腹痛	46	9.3
下痢	2	0.4
生理痛	12	2.4
歯痛	1	0.2
脱水	4	0.8
けいれん	3	0.6
倦怠感(だるさ)	27	5.5
発疹	3	0.6
低体温	1	0.2
その他	26	5.3
計	494	100.0

<その他>

乗り物酔い、てんかん、悪寒 等

表 3-1-3. 発症時期別疾病発生件数・割合

時期	件	%
数日前から	14	2.8
前日から	35	7.1
今朝から	83	16.8
急に	310	62.8
その他	41	8.3
不明	11	2.2
計	494	100.0

<その他>

活動後、バス乗車中、食後、等

表 3-1-2. 要因別疾病発生件数・割合

(複数回答)

要因	件	%	%
本人			62.8
失敗	4	0.8	
不注意	9	1.8	
不慣れ	69	14.0	
不適切な行動	4	0.8	
寝不足	58	11.7	
疲労	231	46.8	
不安・心配・緊張	101	20.4	
体力不足	58	11.7	
人間関係(けんか、ふざけ等)	3	0.6	
既往症	25	5.1	
アレルギー	12	2.4	
指導者			5.3
指導不足	6	1.2	
注意不足	29	5.9	
経験不足	4	0.8	
人数不足	2	0.4	
連携不足	5	1.0	
準備不足	2	0.4	
装備			0.5
不適切な服装	4	0.8	
装備不備	1	0.2	
装備不良(破損・劣化)	0	0.0	
施設・設備の欠陥・不良	0	0.0	
環境			17.7
荒天(強風、雷、吹雪等)	5	1.0	
気温	86	17.4	
日差し	48	9.7	
高度(標高)	6	1.2	
雪	0	0.0	
落石・落木	0	0.0	
不安定さ・滑りやすさ	3	0.6	
虫・動物	0	0.0	
植物	1	0.2	
病原体(ウイルス等)	13	2.6	
その他	62	12.6	6.8
不明	63	12.8	6.9
回答者数	494		↑

※上記の数値は回答数(N=914)を基に割合を算出

(2) 症状別にみた疾病の要因、発症時期、処置・静養後の対応

症状ごとに疾病の発症要因（複数回答）をみると（表 3-2-1）、発熱では「疲労（本人）」（84 件）、「不安・心配・緊張（本人）」（22 件）、「気温（環境）」（18 件）が多くなっており、頭痛では「疲労（本人）」（46 件）、「気温（環境）」（33 件）、「日差し（環境）」（25 件）、嘔吐では「疲労（本人）」（29 件）、「不安・心配・緊張（本人）」（15 件）、「不慣れ（本人）」（14 件）による発症が多くなっている。

表 3-2-1. 要因別・症状別疾病発生件数

(複数回答:件)

要因		発熱	咳・喉の痛み	くしゃみやみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他
本人	失敗	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不注意	1	0	0	0	0	1	0	0	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不慣れ	17	0	0	0	3	15	1	5	14	4	0	1	0	0	0	6	0	1	2
	不適切な行動	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	寝不足	13	1	0	0	0	11	0	10	10	5	0	1	1	0	1	5	0	0	0
	疲労	84	4	1	1	0	46	3	12	29	21	1	4	1	1	1	16	0	0	6
	不安・心配・緊張	22	1	0	1	4	19	0	4	15	15	0	2	0	0	1	9	0	0	8
	体力不足	14	2	1	0	0	21	1	0	4	3	0	2	1	3	1	3	0	0	2
	人間関係	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	既往症	6	1	0	1	1	2	0	1	2	4	0	1	0	0	0	0	1	0	5
	アレルギー	5	2	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
指導・引率者	指導不足	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	注意不足	7	0	0	0	0	4	0	1	5	3	0	1	0	3	0	1	0	0	4
	経験不足	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人数不足	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	連携不足	3	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	準備不足	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
装備	不適切な服装	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	装備不備	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	装備不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設・設備の欠陥・不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
環境	荒天	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	気温	18	1	0	0	0	33	0	5	4	7	0	2	0	2	2	6	0	1	5
	日差し	8	0	0	0	0	25	0	2	3	3	0	0	0	1	1	2	0	0	3
	高度(標高)	2	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	雪	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	落石・落木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不安定さ・滑りやすさ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	虫・動物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	植物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	病原体(ウイルス等)	11	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	15	2	1	0	1	8	1	4	20	5	0	2	0	0	0	0	3	0	0	
不明	23	2	0	0	0	13	1	3	9	2	0	2	0	0	0	3	0	0	5	
回答者数(N=494)	149	8	3	3	6	88	5	30	77	46	2	12	1	4	3	27	3	1	26	

症状ごとに疾病の発症時期をみると（表 3-2-2）、発熱、頭痛、嘔吐では、「急に」（発熱 106 件、頭痛 49 件、嘔吐 57 件）が最も多く、次いで「今朝から」（発熱 16 件、頭痛 17 件、嘔吐 12 件）となっている。

表 3-2-2. 発症時期別・症状別疾病発生件数

(件)

時期	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
数日前から	5	1	0	1	0	2	0	0	1	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	14
前日から	10	2	0	0	0	11	0	3	2	2	0	3	0	0	0	1	0	0	1	35
今朝から	16	4	1	0	0	17	0	8	12	15	1	0	0	0	0	6	1	0	2	83
急に	106	1	1	2	5	49	5	12	57	21	1	5	0	4	3	15	2	1	20	310
その他	9	0	1	0	1	8	0	7	1	6	0	2	1	0	0	2	0	0	3	41
不明	3	0	0	0	0	1	0	0	4	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	11
計	149	8	3	3	6	88	5	30	77	46	2	12	1	4	3	27	3	1	26	494

症状ごとに処置・静養後の対応をみると（表 3-2-3）、発熱では「活動継続」（34 件）より「帰宅」（114 件）のほうが多くなっており、発熱の症状が出た者の 7 割以上が帰宅している状況であった。

表 3-2-3. 処置・静養後の対応別・症状別疾病発生件数

(件)

処置・静養後	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
活動継続	34	5	2	3	6	68	5	23	55	35	1	10	1	4	2	19	2	1	20	296
帰宅	114	3	1	0	0	19	0	7	21	10	1	2	0	0	1	7	1	0	5	192
不明	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	6
計	149	8	3	3	6	88	5	30	77	46	2	12	1	4	3	27	3	1	26	494

(3) 状況別・症状別にみた疾病の発生件数

① 年齢期別・性別・症状別にみた疾病の発生件数

年齢期ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-1）、小学生、中学生、高校生ともに「発熱」（小学生 64 件、中学生 35 件、高校生 15 件）が多く、小学生では「嘔吐」（56 件）や「頭痛」（51 件）も多くなっている。

男女で疾病の症状を比較すると、男性は「嘔吐」（49 件）や「倦怠感（だるさ）」（17 件）、女性は「発熱」（87 件）、「頭痛」（53 件）、「腹痛」（33 件）などの症状が多くなっている。

表 3-3-1. 年齢期別・性別・症状別疾病発生件数

(件)

年齢期	性別	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
幼児	全体	10	0	0	0	0	0	0	2	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	22
	男	6	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12
	女	4	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	10
小学生	全体	64	2	1	1	0	51	2	21	56	24	1	1	0	1	2	21	3	0	12	263
	男	30	1	1	1	0	25	1	11	34	9	1	0	0	1	0	14	1	0	4	134
	女	34	1	0	0	0	26	1	10	22	15	0	1	0	0	2	7	2	0	8	129
中学生	全体	35	3	1	0	1	24	1	2	9	9	0	2	0	0	1	6	0	1	7	102
	男	14	3	0	0	1	8	1	0	9	2	0	0	0	0	1	3	0	1	2	45
	女	21	0	1	0	0	16	0	2	0	7	0	2	0	0	0	3	0	0	5	57
高校生	全体	15	2	1	2	0	4	1	2	3	7	0	5	1	1	0	0	0	0	3	47
	男	9	1	1	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	17
	女	6	1	0	2	0	4	1	0	1	6	0	5	1	0	0	0	0	0	3	30
大学生等	全体	18	1	0	0	3	6	1	1	0	2	0	4	0	2	0	0	0	0	0	38
	男	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	女	18	1	0	0	3	5	1	1	0	2	0	4	0	1	0	0	0	0	0	36
社会人	全体	7	0	0	0	2	3	0	1	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	19
	男	3	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7
	女	4	0	0	0	1	2	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	12
その他	全体	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
不明	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	全体	149	8	3	3	6	88	5	30	77	46	2	12	1	4	3	27	3	1	26	494
	男	62	5	2	1	2	35	2	14	49	13	1	0	0	3	1	17	1	1	8	217
	女	87	3	1	2	4	53	3	16	28	33	1	12	1	1	2	10	2	0	18	277

② 月別・症状別にみた疾病の発生件数

月ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-2）、多くの月で「発熱」の発生件数が多くなっているが、4月は「腹痛」（10件）、6月と7月は「嘔吐」（6月15件、7月13件）が多くなっている。

表 3-3-2. 月別・症状別疾病発生件数

(件)

月	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計	
春・夏	4月	9	2	1	2	2	6	0	2	8	10	0	3	0	0	0	0	0	0	4	49
	5月	19	1	0	0	3	7	1	1	0	3	0	3	1	0	0	2	1	0	0	42
	6月	14	0	0	0	0	6	0	6	15	5	0	0	0	0	1	2	0	0	3	52
	7月	30	0	1	0	1	29	1	6	13	3	0	1	0	1	0	9	0	0	4	99
	8月	8	1	0	0	0	7	0	3	11	5	0	1	0	1	0	3	1	0	6	47
	9月	4	0	0	0	0	6	0	0	3	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	17
秋・冬	10月	24	0	1	1	0	15	0	4	10	6	2	0	0	0	0	4	0	0	2	69
	11月	25	4	0	0	0	4	2	3	10	9	0	1	0	0	0	5	1	0	5	69
	12月	4	0	0	0	0	3	0	4	1	3	0	2	0	0	0	0	0	1	0	18
	1月	4	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	10
	2月	2	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	7
	3月	6	0	0	0	0	2	0	1	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	15
計	149	8	3	3	6	88	5	30	77	46	2	12	1	4	3	27	3	1	26	494	

③ 時間別・症状別にみた疾病の発生件数

時間ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-3）、12 時以降は多くの時間で「発熱」が多くなっており、「発熱」のおよそ半分は 17 時以降（夕食・入浴等、活動（夜）、就寝）の時間帯に発生している。その他、8 時と 9 時は「嘔吐」（8 時 15 件、9 時 8 件）、10 時は「腹痛」（6 件）、11 時は「頭痛」（18 件）が多くなっている。

表 3-3-3. 時間別・症状別疾病発生件数 (件)

時間		発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
起床・朝食等	6時	9	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
	7時	8	0	0	0	0	3	1	1	6	2	0	1	0	0	0	1	1	0	2	26
	8時	6	1	0	0	0	4	0	2	15	2	0	0	0	0	0	3	0	0	0	33
活動（午前）	9時	2	2	0	0	0	3	0	4	8	5	0	0	0	0	0	2	0	0	2	28
	10時	3	1	1	0	1	5	2	4	3	6	1	3	0	0	0	3	0	0	1	34
	11時	4	0	0	0	0	18	0	6	5	4	0	2	0	1	0	5	0	0	4	49
昼食	12時	10	1	0	0	0	7	0	6	5	3	0	1	0	0	0	2	0	0	3	38
活動（午後）	13時	13	0	0	0	0	4	0	0	5	9	0	1	1	0	0	2	0	0	2	37
	14時	9	0	0	0	1	14	0	2	3	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	34
	15時	7	0	0	0	1	9	1	0	1	5	0	0	0	2	0	1	0	0	1	28
	16時	5	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	13
夕食・入浴等	17時	8	0	0	1	1	3	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	1	2	20
	18時	10	0	0	0	0	2	0	0	9	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	25
活動（夜）	19時	14	0	0	0	0	3	0	0	4	2	0	0	0	0	0	2	0	0	1	26
	20時	11	1	0	0	0	4	0	0	4	3	0	0	0	0	0	1	1	0	2	27
	21時	10	1	0	0	0	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	17
	22時	14	1	1	1	0	4	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	25
	23～5時	6	0	1	1	0	0	1	2	4	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	20
不明		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		149	8	3	3	6	88	5	30	77	46	2	12	1	4	3	27	3	1	26	494

④ 活動内容別、場所別・症状別にみた疾病の発生件数

活動内容ごとに発症した疾病の症状をみると（表 3-3-4）、就寝時間（起床時間も含む）では「発熱」（28 件）や「頭痛」（6 件）、「嘔吐」（6 件）の症状が多くなっている。次いで、食事では「嘔吐」（26 件）や「腹痛」（8 件）、「発熱」（6 件）、研修・学習活動では「発熱」（20 件）や「腹痛」（8 件）、「頭痛」（7 件）といった症状が多くなっている。

場所ごとに発症した疾病の症状をみると（表 3-3-5）、宿泊室では「発熱」（62 件）や「嘔吐」（17 件）、「頭痛」（10 件）の症状が多くなっている。次いで、屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）では「頭痛」（23 件）や「発熱」（11 件）、「腹痛」（6 件）、体育館・プレイホール・講堂では「発熱」（20 件）や「頭痛」（9 件）、「腹痛」（6 件）などの症状が多くなっている。

表 3-3-4. 活動内容別症状別疾病発生件数

(件)

活動場所	発熱	咳・喉の痛み	くしやみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他	計
登山・ハイキング	4	0	0	0	0	3	1	1	3	2	0	1	1	1	0	1	0	0	2	20
オリエンテーリング・ウォークラリー	9	0	0	0	1	21	1	0	2	4	0	0	0	0	0	7	1	0	4	50
陸上活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サイクリング・マウンテンバイク	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	3	0	0	0	0	5	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	12
クライミング・ボルダリング	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	6	0	1	0	0	8	0	2	3	2	0	2	0	3	0	1	0	1	0	30
水辺活動	9	0	0	0	0	3	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	17
シュノーケリング・スキューバダイビング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海水浴・磯遊び・釣り	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
沢登り・川遊び	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
雪上活動	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
スキー・スノーボード	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クロスカントリースキー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雪上活動(雪遊び、スノーシュー等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野外炊事	4	0	0	0	0	4	0	0	3	4	1	1	0	0	0	1	0	0	0	18
キャンプ(テント設置等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
キャンプファイヤー・キャンプセレモニー	5	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
創作活動(クラブ等)	5	0	0	0	0	5	0	4	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	16
自然観察	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5
研修・学習活動	20	4	0	0	1	7	0	5	1	8	0	3	0	0	0	4	0	0	4	57
奉仕活動	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
自由時間	23	0	0	1	0	4	0	2	4	3	1	0	0	0	0	1	1	0	2	42
つどい(朝・夕)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
清掃	4	0	0	0	0	1	0	2	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	11
食事	6	0	0	0	0	5	1	3	26	8	0	1	0	0	0	4	0	0	5	59
入浴	1	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	8
就寝時間(起床時も含む)	28	4	2	1	0	6	1	5	6	4	0	2	0	0	1	2	0	0	1	63
移動中	1	0	0	0	1	2	0	6	11	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	25
入所前	4	0	0	0	1	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	11
その他	11	0	0	1	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	19
不明	2	0	0	0	0	2	0	0	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	10
計	149	8	3	3	6	88	5	30	77	46	2	12	1	4	3	27	3	1	26	494

表 3-3-5. 場所別・症状別疾病発生件数・割合 (件)

場所	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他	計
宿泊室	62	4	2	2	0	10	1	8	17	9	1	2	0	0	1	5	1	0	3	128
生活通路・階段	1	0	0	0	0	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
食堂	6	0	0	0	0	5	1	3	24	3	0	1	0	0	0	2	0	0	4	49
浴室	1	0	0	0	0	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	7
研修室・オリエンテーション室	13	1	0	0	1	7	0	7	0	11	0	2	0	0	0	5	0	0	1	48
体育館・プレイホール・講堂	20	2	1	1	3	9	0	1	4	6	0	1	0	0	1	0	0	0	3	52
武道場	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
クライミンググアウール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工作室・調理室等	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5
野外炊事場	4	0	0	0	0	4	0	1	3	4	1	0	0	0	0	2	0	0	1	20
テントサイト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
グラウンド・広場・コート等	9	1	0	0	0	8	2	4	4	3	0	0	0	1	0	5	0	0	2	39
屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	11	0	0	0	0	23	1	2	4	6	0	0	0	3	0	4	1	0	6	61
ロープスコース※	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
海洋施設	5	0	0	0	0	6	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	2	17
敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	9	0	0	0	2	7	0	2	6	1	0	3	0	0	1	1	0	1	3	36
その他	3	0	0	0	0	1	0	2	7	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	17
不明	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5
計	149	8	3	3	6	88	5	30	77	46	2	12	1	4	3	27	3	1	26	494

※アドベンチャープログラムで使用する活動場所

⑤ 天候別・症状別にみた疾病の発生件数

天候ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-6）、いずれの天候も「発熱」（晴 82 件、曇 45 件、雨 16 件、雪 6 件）が多くなっている。

表 3-3-6. 天候別症状別疾病発生件数

(件)

天候	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
晴	82	3	2	2	6	57	5	16	41	33	2	5	1	4	3	17	2	1	14	296
曇	45	4	1	0	0	18	0	4	23	3	0	3	0	0	0	8	0	0	7	116
雨	16	1	0	1	0	12	0	8	11	8	0	4	0	0	0	2	1	0	5	69
雪	6	0	0	0	0	1	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	149	8	3	3	6	88	5	30	77	46	2	12	1	4	3	27	3	1	26	494

IV. 傷病の特徴と今後の安全対策

1. 負傷の特徴と安全対策

(1) 負傷の特徴

- 負傷が多かった症状は「打撲」「きり傷」「ねんざ」で、「打撲」では頭の負傷、「きり傷」では手や指の負傷、「ねんざ」では足首の負傷が多くなっている。
- 負傷が多かった活動は「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」「野外炊事」「創作活動（クラフト等）」で、「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」ではねんざ、打撲、突き指が多く、「野外炊事」ではやけど、きり傷、虫さされ、「創作活動（クラフト等）」ではきり傷、やけど、さし傷による負傷が多くなっている。
- 活動で負傷した時の主な状況をみると、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「サッカーの練習中にスライディングをして手を骨折」「タグラグビーで方向転換した際にひざをひねり、靭帯を損傷」、野外炊事では「薪割りの際、指導とは違う方法でナタを使用して手を切った」「調理中に鍋の取っ手を持つとした際、軍手が溶けてやけど」、創作活動（クラフト等）では「グルーガンを使用中に指をやけど」「スプーン作りで持ち手を削っている時に支えていた左手を切った」といった状況で負傷している。
- 負傷した要因をみると、本人の「不注意」「不慣れ」「失敗」、指導・引率者の「注意不足」「指導不足」、環境の「虫・動物」「不安定さ・滑りやすさ」が多く挙げられている。

(2) 今後の安全対策

<研修支援における安全管理や安全指導の点検・改善>

- 「創作活動（クラフト等）」については、前回調査に続き、負傷全体に占める割合の順位がさらに上がっており、けがをした状況をみると、「グルーガンや電熱ペン、バーナーでやけど」「彫刻刀や小刀で指を切った」「焼き板を磨いていてトゲがささった」など軽微な負傷が多くなっていた。野外炊事においても、「指導とは違う方法でやって手を切った」「熱い鍋を触って軍手がとけた」「濡れぞうきんで熱い鍋を持ってやけどした」など、安全指導を守れておらず、失敗しているケースが複数見受けられた。
- 新型コロナウイルスの流行で活動を控えていた利用団体が戻りつつあるなか、施設からは、今までは起きていなかった負傷が増えているという話を聞くことがある。ここ数年、宿泊研修など活動できていなかった学校や青少年団体等については、子どもだけでなく、指導者・引率者自身も活動に対する理解や経験が不足していたり、経験があっても指導の感覚や危険に対する感受性が鈍っていたりすることが考えられる。それにより、指導者・引率者による安全管理が不十分となり、今までだったら気づいていた危険な行為や状況に気づかず、軽微な負傷につながったり、安全指導を守れていないような状況が起きているのではないかと推察される。
- 施設においては、新型コロナウイルスの流行以前とは状況が異なり、利用者の活動に対する理解や経験などが不足していることを前提に、研修支援における安全管理や安全指導（事前打ち合わせやセーフティトーク等）の内容を点検し、必要に応じて改善を図る必要がある。

<活動前・活動中の安全指導の徹底と状況に応じた安全管理や安全対策の実施>

- これまでの調査結果と同様、負傷の要因の大半を「本人」の要因（不注意、不慣れ、失敗等）が占めているものの、「指導者・引率者」の要因を指摘する回答も2割弱あることから、今後の安全対策として引き続き以下の点に留意する必要がある。
 - ・指導者や引率者、施設職員等は、入所時や活動前の安全指導（施設ではどのような事故やけがが起きやすいのか、それらはどうすれば防げるのかをイメージしやすいように、具体例を

交えて分かりやすく説明する等)を徹底し、利用者の安全意識(自分の身は自分で守る、他の人の安全にも気を配る等)の向上に努めるようにする。

- ・指導者は、活動前だけでなく、活動中も事故やけがの予兆を見逃さないよう危険の発見、把握に努め、状況に応じて適切な安全指導や安全対策を行うようにする。特に、活動の後半は慣れや疲れ等で気が緩みやすくなるため、参加者に適宜声をかけたり、休憩をとるように指導する。

○上記の点を踏まえ、施設では、事前打ち合わせやプログラム体験会等の際に、施設で起きやすい事故やけがとその安全対策をきちんと説明し、利用団体の指導者・引率者が適切な安全管理や安全指導を行えるように支援する。その際、指導者・引率者の人数や体制だけでなく、活動に対する理解や経験なども確認し、利用団体の状況に応じた支援を行うようにする。

2. 疾病の特徴と安全対策

(1) 疾病の特徴

- 発症した疾病の症状をみると、発熱、頭痛、嘔吐、腹痛が上位を占めており、いずれの症状も「疲労」が主な要因として挙げられている。
- 疾病の申し出があった時間をみると、10～14時台に多い傾向がみられる。これまでの調査では、起床・朝食や午前の活動の時間帯(8～10時台)に疾病の申し出が多くなっていたことから、本調査では過去の調査と異なる傾向がみられた。
- 疾病が発症した時期をみると、6割以上が急に体調を崩しているが、疾病を申し出た者の2割強は朝や前日など事前に体調不良を感じている。
- 疾病が発症した後の対応をみると、疾病を申し出た者の4割弱は帰宅している。

(2) 今後の安全対策

- 施設での生活は、慣れない環境による不安や緊張で寝不足になりやすく、その上、普段の生活より体を動かしている時間が長いと、思った以上に疲れがたまりやすい環境にある。そのため、体調を崩し、発熱や頭痛、嘔吐といった症状が出てしまうと、病状によっては休養しても活動を続けることが難しくなり、帰宅しなければならないことになる。
- 指導者は、施設での生活は体調を崩しやすい環境にあることを理解し、計画段階では、利用者の年齢や体力に合わせた無理のない活動計画を立てるとともに、利用期間中は、定期的に健康チェックを行い、疲れている様子が見られる利用者には適宜休憩を取らせ、体調を崩さないように配慮するなど、利用者の疲れ具合や体調に合わせた柔軟なプログラム運営を心がけるようにする。
- 特に、夏季に屋外でスポーツ活動を行う場合は熱中症に注意が必要である。「気温・湿度が高い日は、長い時間、屋外で活動しない」「適宜、風通しのよい涼しい場所で休憩する」「水分や塩分(スポーツドリンクなど)をこまめに補給する」「十分な睡眠をとり、食事をきちんととる」など、熱中症の正しい予防法を学び、普段から気をつけるようにする。

傷病記録

(様式1③)

1. 傷病者

1-1. 傷病者の情報をお書きください。

団体名：_____ 氏名：_____ 性別：1. 男 2. 女
 年齢：_____ 歳 (1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生 5. 大学生等 6. 社会人 7. その他)

1-2. けがが発生した又は病気の申し出のあった日時、環境、活動場所、活動内容、対応等をお書きください。

日時：20__年__月__日 __時頃(24時) 利用者数：_____名(うち指導者__名)

日程：全__日中__日目 天候：1. 晴 2. 曇 3. 雨 4. 雪 環境：1. 屋内 2. 屋外

活動場所：_____ 活動内容：_____

病院の受診：1. 無 2. 有(日帰り) 3. 有(入院) 処置・静養後：1. 活動継続 2. 帰宅

以下、病気の場合は「2.」、けがの場合は「3.」を記入し、最後に「4. 傷病の要因」についてお答えください。

2. 病気

2-1. 以下から最も当てはまる「症状」を選び、その「発症時期」をお答えください。(○はそれぞれ1つ)

【症状】 1. 発熱(→ a. 熱中症による b. 熱中症以外による) 2. 咳・喉の痛み 3. くしゃみ・鼻水 4. 喘息
 5. 過呼吸 6. 頭痛 7. めまい 8. 吐き気 9. 嘔吐 10. 腹痛 11. 下痢 12. 生理痛 13. 歯痛
 14. 脱水 15. けいれん 16. 倦怠感(だるさ) 17. 発疹 18. 低体温 19. その他()

【時期】 1. 数日前から 2. 前日から 3. 今朝から 4. 急に 5. その他()

3. けが

3-1. 以下から最も当てはまる「症状」を選び、その「部位」と「程度」をお答えください。(○はそれぞれ1つ)

【症状】 1. きり傷 2. さし傷 3. すり傷 4. やけど 5. 日焼け 6. 凍傷 7. 打撲 8. 突き指
 9. ねんざ 10. 靭帯損傷・断裂 11. 脱臼 12. 骨折 13. 鼻血 14. 歯の破折 15. 眼のけが
 16. 虫刺され(→ a. アブ・ブヨ b. ハチ c. ダニ d. 毛虫 e. ムカデ f. クラゲ g. その他())
 17. かぶれ 18. 気道閉塞・誤嚥 19. 溺水 20. その他()

【部位】 1. 頭 2. 顔 3. 眼 4. 首 5. 肩 6. 上腕 7. 肘 8. 前腕 9. 手首 10. 手・指 11. 胸
 12. 腹 13. 背中 14. 腰 15. 尻 16. 大腿 17. 膝 18. 下腿 19. 足首 20. 足・指 21. 全身

【程度】 1. 軽微(その場で手当てできる軽いけが) 2. 軽傷(医師による1か月未満の治療を要するけが)
 3. 重傷(医師による1か月以上の治療を要するけが) 4. 致命傷(死亡・後遺症が残る重篤なけが)

3-2. けがをした時の状況(何をしていた、どのようにけがをしたのか)を具体的にお書きください。

4. 傷病の要因

4-1. 傷病が発生した要因と思われる事柄を以下から選んでください。(○はいくつでも)

【本人】 1. 失敗 2. 不注意 3. 不慣れ 4. 不適切な行動 5. 寝不足 6. 疲労 7. 不安・心配・緊張
 8. 体力不足 9. 人間関係(けんか、ふざけ等) 10. 既往症 11. アレルギー

【指導・引率者】 12. 指導不足 13. 注意不足 14. 経験不足 15. 人数不足 16. 連携不足 17. 準備不足

【装備等】 18. 不適切な服装 19. 装備不備 20. 装備不良(破損・劣化) 21. 施設・設備の欠陥・不良

【環境】 22. 荒天(強風、雷、吹雪等) 23. 気温 24. 日差し 25. 高度(標高) 26. 水深 27. 雪
 28. 落石・落木 29. 不安定さ・滑りやすさ 30. 虫・動物 31. 植物 32. 病原体(ウィルス等)

【その他】 33. その他(1.~32.以外の要因)()

施設記入欄

受理者：_____ ※受理者は記入漏れがないか受取時に確認してください。

【事業種別】 1. 研修支援 2. 教育事業 【No】 _____ (年度の通し番号)

安全

楽しい活動の第一歩
～事故0を目指して～

楽しい活動は「安全」という土台があってはじめて成り立ちます。安全に楽しく活動するためには、どのような活動でどういった事故やけがが起きやすいのかを理解し、そのための対策をあらかじめ考え、準備しておく必要があります。

けがをしやすい活動 ワースト3(春～夏)

平成30年度「傷病調査」(上半期)集計結果(速報値)

1位 スポーツ活動 (151件)

《けがの種類》

- 打撲……………22.5%
- ねんざ……………18.5%
- 虫刺され……………14.6%

《けがをした状況》

- ボールをよけた時に人とぶつかり、バランスを崩して転倒、後頭部を強打。
- 走っている時に足首をひねり、ねんざ。



2位 野外炊事 (110件)

《けがの種類》

- やけど……………40.0%
- きり傷……………20.0%
- 虫刺され……………13.6%



《けがをした状況》

- 鍋のふたの取手を素手でつかんでしまい、やけど。
- 薪を押さえていた手にナタが当たり、人差し指を切った。

3位 登山・ハイキング (80件)

《けがの種類》

- 虫刺され……………32.5%
- ねんざ……………22.5%
- 打撲……………12.5%

《けがをした状況》

- 下山後、足首についたマダニを発見。
- 下山中、足場の悪いところで足をひねり、ねんざ。



活動中の事故やけがを予防するためには？(春～夏)

スポーツ活動では

- 運動前にウォーミングアップとストレッチ(特に脚)をしっかりしておく。
- 周りをよく見ながら動くようにする。



野外炊事では

- 軍手、長袖、長ズボンなど野外炊事に適した服装をする。
- 包丁やナタの使い方を説明するだけでなく、誤った持ち方や動かし方などを実際に見せながら、どうしたら手を切ってしまうのかを分かりやすく説明する。



登山・ハイキングでは

- 帽子、長袖、長ズボン、手袋、足首を覆う靴下の着用など、登山・ハイキングに適した服装をする。
- マダニなどの侵入を防ぐため、シャツの裾はズボンの中に入れるようにする。
- 適宜休憩を取るようにし、足場が悪いところは注意しながら歩くように声をかけるようにする。



Attention!

思わぬ事故やけがに注意!



- 1 自由時間にベッドで遊んでいて転落(腕の骨折)
- 1 ガラス戸に気づかず入ろうとして顔面を強打(歯の破折)
- 1 入浴中にふざけて熱湯をかけてしまい、やけど(上半身・太腿にⅡ度の熱傷)
- 1 地図を見ながら歩いていて側溝にはまり、足を強打(下腿の裂傷)
- 1 階段を飛び降りて着地に失敗し、足をくじく(足首のねんざ)

けがに注意!!

体験活動中の

青少年教育施設で起きたけが ワースト3(春~夏)

平成30年度「傷病調査」(上半期)集計結果(速報値)

3位 ねんざ (114件)

《けがをしたところ》

足首……………74.8%
足・指……………9.0%
手首……………7.2%

《けがの要因》

- 不注意(本人)
- 不慣れな活動(本人)
- 不安定さ・滑りやすさ(環境)

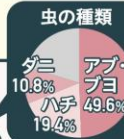
ねんざ
12.7%

虫刺され
18.8%

1位 虫刺され (168件)

《けがをしたところ》《けがの要因》

下腿……………21.7% ■虫・動物(環境)
足首……………14.6% ■不適切な服装(装備)
手・指……………13.4% ■不注意(本人)



2位 打撲 (151件)

《けがをしたところ》

頭……………28.4%
顔……………10.8%
手・指、膝、足・指…9.5%

《けがの要因》

- 不注意(本人)
- 注意不足(指導・引率者)
- 失敗、不慣れな活動(本人)

打撲
16.9%

安全で楽しく活動するために

体験活動には、思わぬ事故や大きなけがが発生するリスクがあります。体験活動の指導者は、活動の指導や支援を行うだけでなく、子供たちが安全に活動できる環境づくりにも配慮することが大切です。

安全管理の3つのポイント

- 01 計画段階では見落としがないようにできるだけ多くの危険を洗い出し、活動中も危険の発見・把握に努めながら、状況に応じて適切な安全対策を講じるようにしましょう。
- 02 指導者間で想定される危険や安全対策の情報を共有するとともに、事故が起きた時の対応や手順の確認などを行い、子供たちの安全を確保できる体制づくりを行うようにしましょう。
- 03 子供たちには、安全に関するセーフティークを行うなど、「自分の身の安全は自分で守る」という意識を持たせるようにしましょう。

安全と危険のバランスを考える

「安全を意識しすぎる」ことにも注意が必要です。
過度に活動を制限したり、禁止したりすると、子供たちの活動に対する満足度が低下するだけでなく、安全に対する自主性や主体性をなくむ機会も失われ、活動の教育効果が薄れてしまうことにもなりかねません。
指導者は、想定されるリスクを自分たちの許容範囲に抑えつつ、過剰な安全管理にならないように安全と危険のバランスを考えながら活動することが大切です。

活動前のチェックリスト

- 活動場所で危ないところがないか、使用する用具に破損がないかなどを点検しましたか?
- 気象情報(天気、気温、湿度、風など)を確認しましたか?
- スタッフ間で情報共有(子供の人数や特性、役割分担、配置、禁止事項、緊急時の対応など)はできていますか?
- 子供たちは活動に適した服装(帽子、長袖、長ズボン、軍手など)をしていますか? また、持ち物も確認しましたか?
- 体の調子が悪い子供や気分がすぐれない子供はいないか、活動前に確認しましたか?
- セーフティーク(安全指導)を行いましたか?

事故0

事故を起こさないために

想定外の事故やけがを起こさないために最も気をつけなければならないのは、『隠れた危険(危険の見落とし)』がないようにすることです。

「ちょっと気になることがある」、「ちょっと不安がある」といった状態で活動することは事故の元になります。そのような時、場合によっては、活動の中止を決断する『やめる勇気』を持つことも大切です。

このリーフレットに関するお問い合わせ…国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター企画室
TEL:03-6407-7740 E-mail:kenkyu-soumu@niye.go.jp

「国立青少年教育施設における傷病の概況（令和3年度調査）」 実施体制

(調査・普及)

国立青少年教育振興機構教育事業部企画課

(データ処理)

国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター企画室

(分析・執筆)

青 木 康太朗 国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター客員研究員
國學院大學人間開発学部子ども支援学科准教授

「国立青少年教育施設における傷病の概況（令和3年度調査）」 報告書

令和5年3月

編集・発行／お問い合わせ先

独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1

(施設に関すること) 教育事業部企画課研修支援・連携係

電話番号 03-6407-7686 FAX 03-6407-7699

E-mail honbu-sien@niye.go.jp

(分析に関すること) 青少年教育研究センター

電話番号 03-6407-7741 FAX 03-6407-7619

E-mail kenkyu-soumu@niye.go.jp
